

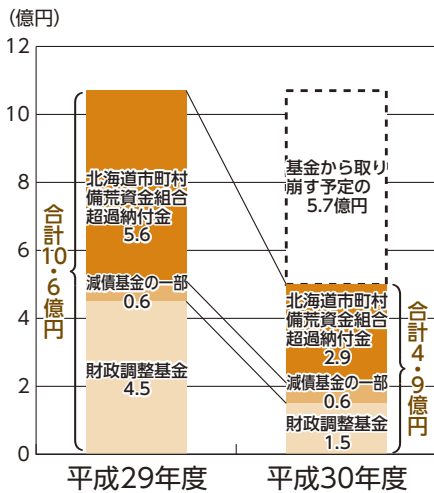


**平成30年度の一般会計予算では、  
5億7,000万円の基金（預金）  
を取り崩して予算を編成**

支出209億6,500万円に対し、収入が203億9,500万円の見込みとなったため、財源の不足分である5億7,000万円は基金を取り崩して対応することとし予算を編成しました（各基金残高は表1）。

皆さんの家庭と同じく、市の財政も一定の蓄えが必要ですので、できるだけ基金残高を確保し、将来にわたって安定的な財政運営を図るよう、引き続き収入の増加や支出の節約に努めていきます。

**基金残高の内訳** 表1



※財政調整基金、減債基金の一部、北海道市町村備荒資金組合超過納付金とは、万が一のときの備えとしている基金（預金）のことです。  
※表示単位未満は四捨五入しているため、合計と内訳の計は一致しません。

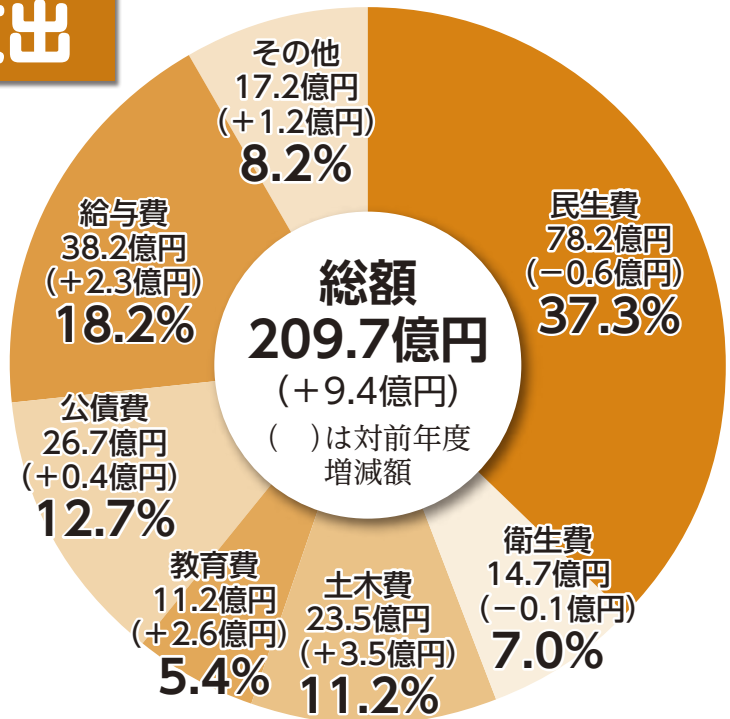
**特別会計予算（内訳）** 表2

国民健康保険	58億3,820万円
学校給食事業	3億3,800万円
簡易水道事業	5,320万円
介護保険	38億7,560万円
カルルス温泉スキー場事業	1億1,350万円
後期高齢者医療	7億9,870万円

**公営企業会計予算（内訳）** 表3

水道事業	18億 800万円
下水道事業	37億7,160万円

**支出**



**支出のポイント**

医療や福祉に使う『民生費』が支出の約40%を占めています。借金を返済するための『公債費』は、前年度とほぼ横ばいで約13%となっています。  
『土木費』は、道道上登別室蘭線東通の改良に関する受託事業費の増加などにより大きく増加しており、『教育費』は、幌別西小学校・富岸小学校の耐震化・改修工事を行うことなどにより増加しています。

- 民生費  
高齢者や子どもなどの福祉に使うお金
- 衛生費  
市民の健康増進、ごみ処理などに使うお金
- 土木費  
道路や市営住宅などの整備・維持管理に使うお金
- 教育費  
児童・生徒の教育、学校の整備や運営などに使うお金
- 公債費  
借金を返済するためのお金
- 給与費  
職員に給料や手当などを支払うためのお金

**市民一人当たりに使われる額  
42万9,743円**

※平成30年2月28日現在の人口で割ったものです。



**公営企業会計は  
2億3千380万円の増**

公営企業会計は、民間企業と同様に独立採算を原則として事業を行う会計で、水道・下水道事業の2つの会計があります（各予算額は表3）。平成30年度の公営企業会計予算の合計は、前年度に比べ、2億3千380万円増加の55億7千960万円となりました。

業を行う会計で、国民健康保険、学校給食事業、簡易水道事業、介護保険、カルルス温泉スキー場事業、後期高齢者医療の6つの会計があります（各予算額は表2）。平成30年度の特別会計予算の合計は、前年度に比べ、8億6千500万円減少の110億1千720万円となりました。